

水稻の秋期管理情報第1号

(ニカメイガ、イネ縞葉枯病、イネ白葉枯病)

令和8年10月5日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

水稻の収穫後は、速やかに刈り株をすき込みましょう！

水稻の収穫後、ほ場の耕うんや畦畔雑草の除草を行い、病原菌の伝染源や害虫の越冬場所をなくすことで、次作での病虫害の発生量を減らすことができます。また、今作の発生状況を踏まえ、次作における箱施薬を検討しましょう。

1 ニカメイガ

近年、巡回調査において県内のニカメイガによる被害株率が増加傾向にあり、県内各地に設置した予察灯においても成虫の誘殺数が増加しています。

本年9月下旬における巡回調査において、本虫の被害株率は1.67%（平年0.42%、前年1.48%）とやや高い状況でした。また、弥富市の予察灯は他地域の予察灯に比べ誘殺数が多く、7月中旬から9月中旬にかけて成虫の誘殺が多い状況が続きました（図1）。

本種の幼虫はイネの茎の内部に食入し、茎を枯らしめます（心枯れ症状）。特に第2世代幼虫による被害が大きく、白穂や坪枯れ症状となることもあります（図2）。

本種は収穫後の刈り株や畦畔雑草で越冬するため（図3）、収穫後は速やかに刈り株をすき込み、ほ場周辺の除草を徹底しましょう。

ニカメイガの発生が多かった地域では、次作における箱施薬を検討しましょう。

2 イネ縞葉枯病

本年のイネ縞葉枯病の発生量は平年並ですが、5月の調査ではヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が高い地域があったため、次作も注意が必要です（表）。

本病は、ヒメトビウンカが媒介します。イネが本病に感染すると、葉先が「こより状」に垂れ下がり枯死します（ゆうれい症状）。また、穂が出すくんだり、不稔になったりすることにより減収します。

水稻の刈り株から発生したひこばえは、ヒメトビウンカの生息場所になることに加え、ヒメトビウンカが発病株のひこばえ（図4）を吸汁して、イネ縞葉枯ウイルスを保毒することにつながります。収穫後、できるだけ早く耕うんするなど、ひこばえを放置しないようにしましょう。また、ヒメトビウンカは、畦畔等のイネ科雑草でも越冬するため、ほ場周辺や畦畔等の除草を徹底しましょう。

3 イネ白葉枯病

本年のイネ白葉枯病の発生量は、平年並～やや少ない状況でした。

本病の病原菌は、被害わら、もみ、畦畔の多年生イネ科雑草等で越冬し、次作の伝染源となります。発生が確認されたほ場では、秋期に稲わらをすき込み、腐熟させるとともに、畦畔の除草を行いましょう。

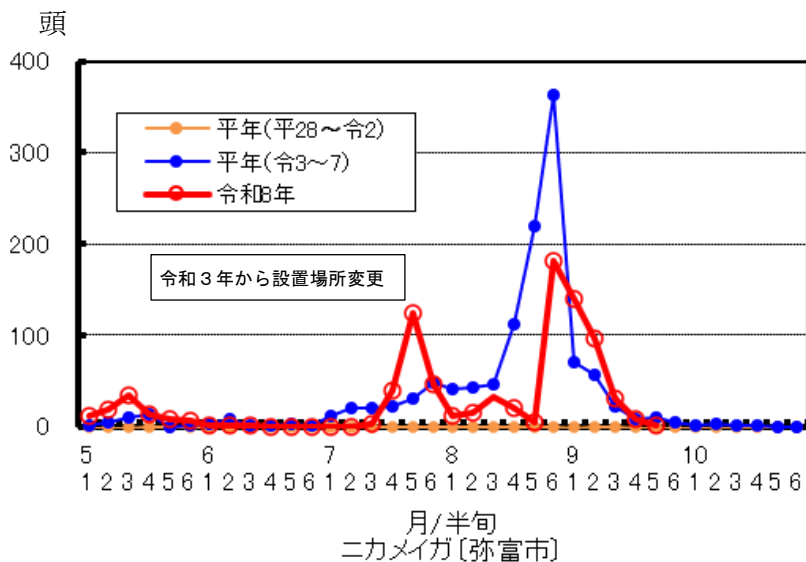


図1 弥富市の予察灯におけるニカメイガの誘殺状況



図2 ニカメイガ被害株
(白穂症状)



図3 刈り株の茎内にあるニカメイガ



図4 イネ縞葉枯病の症状
(ひこばえにおける穂の出すくみ)

表 ヒメトビウンカの縞葉枯ウイルス保毒虫率
(令和8年5月に採取、簡易 ELISA 法により検定)

調査地点		検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
弥富市	鍋田町	25	0	0.0
飛島村	新政成	25	0	0.0
長久手市	農総試内	16	1	6.3
豊田市	田代町	25	0	0.0
	前林町	25	0	0.0
	中町	25	0	0.0
	和会町	25	0	0.0
	福受町	25	0	0.0
刈谷市	小垣江町	25	4	16.0
安城市	里町	25	0	0.0
	赤松町	25	0	0.0
	榎前町	25	1	4.0
	寺領町	25	4	16.0
	高棚町	25	0	0.0
岡崎市	在家町	25	1	4.0
碧南市	縄手町	25	0	0.0
西尾市	小栗町	25	1	4.0
	一色町	25	0	0.0
	吉良町	25	0	0.0
	小焼野町	25	0	0.0
	大和田町	25	0	0.0
計		516	12	2.3 (平均)